

人とまちがつながる町おこし

— 定住促進・空き家利用 —



農家民泊



シェアハウス



飲食店

町内外とのつながりを

大切にすまちなび

紀美野町では、平成18年度より、移住支援事業を実施しています。現在3つの短期滞在施設を整備し、移住前に地域の生活や文化に触れる機会を提供することで、定着率の高い支援をめざしています。

移住してきた方の中には、空き家を活用して飲食店や農家民泊などを開業している方もいます。こうした動きは、紀美野町に関心を寄せる移住者を増加させる効果を持つと共に、新たな観光資源となっています。

都市部から移住して地域活動を支援する地域おこし協力隊員も、卒業後に起業を選択し、紀美野町に定住している例もあります。

今後も、本事業を行うことで農村ビジネスによる地域経済の活性化や、地域課題の解決につながるよう取り組んでいきます。



手漉き和紙工房とショップ



真国地区



真国地区では、『芸術を核とした住民主体の集落づくり』をスローガンに「真国まちづくり会」が「真国芸術の郷プロジェクト」「雨山の郷プロジェクト」の活動が生まれ、地産地消の推進や定期的に芸術祭などのイベントを開き、関係人口を増やすことで活力ある地域へとつなげています。



長谷毛原地区



長谷毛原地区では、自分たちで地域を守り伝えていくという想いを共有する各団体が集まり平成26年度に結成した「元気長谷毛原会」が活動しています。

古き良き田舎の景観を現在に伝える旧毛原小学校の木造校舎を活動拠点とし、地域の歴史・文化・自然が持つ魅力や豊かさを享受し、喜び溢れる日々を過ごすことができる地域を創設・維持するため、安心・元気なまちづくりや里山の魅力と伝統文化の継承・発信に精力的に取り組んでいます。

紀美野町各地区で活躍する地域おこし



上神野地区



上神野地区では、地区の将来ビジョンに沿って活動することで、地区の良さを次世代に継承すると共に、誇りを持って暮らし続けられるよう「まちづくり」に取り組んでいます。

また、上神野地区出身の森本晃司氏がデザインしたラベルやキャラクターを用いた「てとよ」の周知や週末のみ営業している直売所「柿の木」での、特産品、地域伝統食の販売を通じて、関係人口の増加や継続的に活動する仕組み作りに取り組んでいます。

志賀野地区



志賀野地区では、かつて特産品であった「ブドウハゼ」の復興をめざした「志賀野さみどり会」と旧志賀野小学校で開催される「志賀野フェスタ」やさまざまな体験活動を主宰する「未来de志賀野」が活動しています。

地域の空き家を活用した「志賀野ベース」を拠点に、「ハゼ口搾りワークショップ」を行うなど、両団体が連携しながら活発な交流活動を行っています。



小川地区



小川地区では、平成25年に『生石山で健康になるプロジェクト』の一環として、小川の郷直売所を整備したのをきっかけに、平成28年には地域の空き家を活用した宿泊体験施設「風の森」をオープンしました。

また、和歌山大学観光学部LPP（ローカルパートナーシップ）プロジェクトと共に、小川小学校でのイルミネーションなど、活動を通して地域活性化に取り組んでいます。

Town Revitalization that Connects Town to People

Kimino town has been implementing an inbound relocation support project since 2006. In addition to increasing the number of people moving to the town, this project has also worked to transform empty houses into used spaces. We will continue our efforts to revitalize the local economy through rural businesses and to help solve local problems. In addition, every district of the town is engaged in lively regional exchanges based on local themes.

